

○事業所名	放課後等デイサービス ジュン とつか		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 20日		2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 11月 20日		2025年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月11日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の支援記録、朝礼・昼礼・夕礼、個別支援計画の共有が定着しており、こどもの様子を職員間で早くそろえて支援に反映できている点です。保護者からも連絡帳の記載が詳しく写真も分かりやすいという評価があり、日常の支援と家庭への報告が繋がっていることが大きな強みです。	個別支援計画は職員が確認しやすい場所にファイルで整備し、支援前後の打合せで当日のねらい、役割分担、気づきを共有しています。連絡帳や面談では活動内容だけでなく健康や発達の様子も伝え、家庭と事業所の見立てがずれないように意識して対応しています。	記録の質をさらにそろえるため、計画目標ごとの振り返り欄や保護者へのフィードバック項目を統一します。日々の記録を面談や計画見直しに確実につなげ、支援の意図と結果が保護者にも職員にも分かりやすい流れを作ることで、支援の納得感を高めます。
2	生活空間の清潔さ、分かりやすい構造化、必要時に落ち着ける場所を確保できる点は、職員・保護者の双方で評価が高く、安心して過ごせる基盤になっています。加えて、制作、公園、室内レク、外出など活動の幅が広く、固定化しないよう工夫している点も、通所継続の動機につながる強みです。	毎日の清掃や消毒を継続し、活動内容や児童の状況に応じてパーテーションや個別スペースを使い分けています。曜日や人数に合わせて室内活動と外出を組み合わせ、土曜や長期休みも行き先の幅を広げることで、こどもが飽きずに参加できる環境づくりを進めています。	曜日ごとの利用人数や活動内容を見ながら空間の使い方を細かく調整し、狭さを感じやすい時間帯の重なりを減らします。あわせて、活動のねらいを保護者に伝える機会を増やし、楽しいだけでなく何を育てる活動かまで共有することで、環境整備の価値をより見える形にします。
3	保護者への説明、日頃の情報共有、学校との連絡調整、通信やSNSでの発信は全体として高く評価されており、日常運営の安定につながっています。特に送迎時や連絡帳での確認が丁寧で、予定変更やこどもの様子を早く共有できるため、家庭と学校を含めた支援のつながりを保ちやすい点が強みです。	利用開始時の説明に加え、面談、連絡帳、送迎時のやり取り、事業所だよりやSNSを通じて、活動内容や予定を継続して伝えています。学校からは週間・月間・年間予定を受け取り、下校時刻や送迎変更を事前に確認することで、現場の混乱を減らしながら安全な運営につなげています。	発信の頻度だけでなく、内容の整理を進め、支援計画、活動報告、安全情報、法改正対応などを分かりやすく区分して伝えます。ホームページの更新遅れも見直し、紙面・SNS・面談で伝える内容をそろえることで、必要な情報に保護者が迷わず届く状態を整えます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム、保護者同士の交流、相談体制の周知は、保護者評価でも職員評価でも課題が見られました。実施していても保護者に十分伝わっていない項目があり、支援内容が見えにくいことが不安や「分からない」の回答につながっています。家庭支援を支援の一部として分かりやすく示す必要があります。	日々の連絡はできている一方で、家族向け支援を年間計画として示す仕組みや、相談窓口・参加方法を明確に伝える仕組みが弱いことが要因です。面談が様子共有中心になりやすく、助言、家族支援、交流機会の目的や内容が保護者に伝わっていない面もあります。	年間の家族支援計画を作成し、面談、ミニ講座、保護者会、きょうだい支援の実施時期と内容を先に知らせます。相談方法も書面とSNS等で明示し、支援計画面談では次期目標と家庭での関わり方まで具体的に共有して、「相談できる」「参加できる」状態を確実に作ります。

2	<p>地域の関係機関との連携、児童館等との交流、地域に開かれた運営、協議会参加など、外部とのつながりに関する項目は低評価が目立ちました。一部は対象ケースが少ないことありますが、実施経験や周知が十分でないため、事業所の外に支援を広げる視点が弱く見えていることが課題です。</p>	<p>日常運営と個別対応が優先され、地域連携や外部会議への参加を役割として計画的に進める体制が弱いことが要因です。また、交流があっても偶発的で、事業所としての目的や記録、保護者への報告まで整理されていないため、取組として認識されにくい状況があります。</p>	<p>学校、相談支援事業所、医療、児童発達支援センターとの連携先を整理し、連携担当者と参加基準を明確にします。地域交流は無理に回数を増やすのではなく、安全性と目的を定めた小規模な実施から始め、実施後は保護者へ報告して、地域とのつながりを見える形で積み上げます。</p>
3	<p>職員研修、広い職員参加による振り返り、虐待防止や身体拘束に関する研修、安全計画やマニュアルの周知では改善余地があります。支援そのものは行えていても、根拠となる研修機会や共有の仕組みが不足すると、専門性のばらつきや説明不足につながるため、運営基盤の整備が課題です。</p>	<p>以前はあった研修が最近では継続できていないこと、日々の共有はできていても、全職員が同じ視点で振り返る定例の学習機会が少ないことが要因です。安全や権利擁護の内容も、実施はしていても記録、周知、説明の形式がそろっておらず、外から見えにくい状態です。</p>	<p>年間研修計画を再整備し、専門支援、家族支援、安全管理、虐待防止、身体拘束適正化を必須テーマとして定例化します。あわせて、PDCAの確認様式を簡潔に統一し、訓練実施や周知内容を文書で残して保護者にも伝えることで、支援の質と説明責任の両方を高めます。</p>

事業所名	放課後等デイサービス ジュン とつか
------	--------------------

公表日 2026年3月12日

利用児童数 27名 回収数 12枚

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	1		1	曜日やレクの内容によって狭くなると感じる。 人数や密集率はよく分かりません。	曜日別の利用人数と活動内容を見直し、 室内配置と空間の使い分けを進めます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8	2		2	送迎スタッフが1人だと不安なときがある	送迎時の安全確認手順と配置の考え方を 改めてお伝えし、必要時は体制を見直しま す。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー 化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いま すか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いま すか。	9	3				
適 切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支 援が受けられていると思いませんか。	10	2			特性に応じた専門性のある支援はあまり感じられ ない	職員研修を計画的に行い、特性理解と 支援方法の共通化を進めます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いませんか。	12				ただホームページの公開されている内容が古い	ホームページ掲載内容を更新し、 現在の支援プログラムと一致させます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に 分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成さ れていると思いませんか。	11	1			子どもと保護者のニーズ課題を客観的に分析する フェーズを実施しているか分からない	ニーズ把握から計画作成までの流れを 面談時に分かりやすくお伝えします。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いま すか。	10	2			子ども支援に必要な項目はある程度設定してい るが、内容や項目が十分分からない。専門的な視 点で分析し策定して欲しい。	支援項目の意味とねらいが伝わる説明に改め、 専門的な見立ても平易に共有します。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いませんか。	11	1			日々の支援で個々の計画を意識してフィードバ ックして欲しい。	日々のフィードバックで、当日の支援が 計画の目標とどう結び付くかをお伝えします。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	11	1			室内プログラム、土曜日や長期休みの外出先のバ リエーションがとても多くありがたい。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機 会がありますか。	1	4	2	5	見たことがない。 学童やキッズとの交流があるか知らない。 小学校があるので特に求めていない。 知っているお友達が居れば遊んでいる。	地域交流は実施の有無と目的が伝わるよう、 事前案内と事後報告を行います。
保 護 者 へ の 説	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	11	1				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされ ましたか。	10	2			面談はあるが様子共有とヒアリングメインになっ ているので次期の目標(支援計画)をベースに行っ た方が良いと思う。	面談は様子共有だけでなく、次期目標と 支援計画を軸に説明する形へ見直します。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	5	3	2	2	聞いたことがない。	家族向け情報提供や学びの機会を 年間計画に位置づけ、事前にご案内します。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態 について共通理解ができていると思いませんか。	12				連絡帳でとても詳しく、なおかつ写真付きでとて も分かりやすい。 記述が充実していて職員の負担になっていないか 心配。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	2	1		子育てに関する助言はもっと欲しい。	面談や日々のやり取りで、家庭で役立つ助言を 具体的にお伝えする機会を増やします。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いませんか。	11	1			職員による特性等について理解頂けているか分 からないと感じることがある。	職員間で特性理解の共有を進め、 対応のばらつきを減らします。

明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	4	1	今まではなかったが2月に初めて行われる。	保護者会は継続開催し、参加しやすい形を検討します。 きょうだい支援も無理のない範囲で整えます。	
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8		1	3	方法などについてごちから確認した。特性を踏まえた相談についてどのような職員体制があるのか分からない。日々の報告も特性をもつ子ならではの視点が欲しい。 送迎の順番や延長利用について対応してもらっている。	相談窓口と対応の流れを改めて周知し、相談内容に応じた担当体制をお伝えします。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11				1	
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	4		1	マニュアルの有無などの詳細は不明。 訓練はよくしているが保護者への周知はないと思う。	訓練は継続しつつ、マニュアルや実施内容を保護者へ定期的にお知らせします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10				2	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9				3	誰に向けて周知されているのか分からない。 安全計画の内容と周知方法を見直し、何を共有しているか分かる形にします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	2			1	
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	2				法改正対応について受け身感が遅れがある。主旨を踏まえて前向きに取り組んで欲しい。 特性に踏まえた専門的支援や体制作りをして欲しい。

事業所名		放課後等デイサービス ジュン とつか			公表日	2026年3月12日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	1	クールダウン出来るような部屋も用意されている。 必要に応じてパーテーションを使っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	0	1対1で支援しなければならない児童が多いため1日の配置も多めにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	0	毎日の清掃や消毒がなされている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	0		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	5		目標設定と振り返りの様式を統一し、全職員が意見を出せる運営に改める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	月に1回事業所ミーティングを行っている。 また毎日に支援終了後に夕礼を行い意見交換や共有をしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	9	以前はあったが最近開催されていない。	年間研修計画を再開し、内部研修と外部研修の受講機会を確保して共有まで行う。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	0	天気に応じて支援内容の変更・準備もスムーズに出来ている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10	1		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	1		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	1	全職員が確認出来るよう分かりやすい位置にコピーを1冊のファイルで管理している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	2		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	4		家族支援、移行支援、地域連携の視点を計画様式に明記して確認手順を統一する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1	週に1回会議を行い意見交換をしている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	0	公園・制作・室内レク・外出など様々な経験が出来るように立案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	0	朝礼・昼礼で確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	0	毎日必ず夕礼を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	0	夕礼で記録を取っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	11	0		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11	0	製作などでそれぞれの個性や意見を活かした支援をしている。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	4		担当者会議の対象児童を整理し、参加基準と参加後の共有方法を明確にする。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	7		連携先一覧と連絡窓口を整備し、必要時に速やかに相談できる体制をつくる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11	0	週間・月間・年間で予定表をいただき、事前に送迎を組んだり、毎日送迎時間の確認を連絡帳で行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	4		新規利用時の引継ぎ確認項目を定め、必要に応じて就学前機関と情報共有を行う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	11		現時点对象者はいないが、必要時に備えて情報提供手順と記録様式を整備する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	8		外部助言を受ける機会を計画的に設け、個別ケースの見立て向上に活用する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9	2	公園で同じ学校のお友だちが居るとジュンの児童も交えて遊んでいる。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	11		地域協議会の開催情報を把握し、参加の要否を管理者が定期確認する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	7		家族向け情報提供、面談、ミニ勉強会を年間計画に組み込み実施状況も案内する。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0			

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0	面談や連絡帳で常に応じるようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	6	今まではなかったが2/26に開催した。またこれからも年1回行う予定。	開催を単発で終えず、参加しやすい規模と内容で継続し、次回改善につなげる。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11	0	インスタグラムやとつかだよりを配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	11		安全管理を前提に、見学受け入れや説明機会など無理のない形から地域公開を検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	3	5月と11月に避難訓練や防災センターに行っている。 災害時対応マニュアルを配布した。	訓練実施に加え、マニュアルの周知方法を統一し、保護者へ説明した記録も残す。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	1	指示書はないが保護者に事前に確認し、職員間で共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	2		安全計画の更新、研修、点検、訓練の記録をそろえ、全職員が確認できるようにする。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	2		安全計画の要点を文書で分かりやすく伝え、配布と説明の記録を残す。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	6		虐待防止研修を年間必須とし、理解確認とケース検討を含めて実施する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	6		身体拘束適正化の基準、手続、説明方法を整理し、必要時は計画書への記載まで確実にを行う。	